

阿部 美恵子（関西学院大学日本語教育センター）

## 1. 目的

国際交流基金関西国際センターとは、2012 年度より交流会を行っており、今回が 4 回目の実施である。本学の学生にとって交流会の実施には、①異文化交流の場を提供する機会が増える、②交換留学協定校以外の国・地域からの留学生と接する機会となる、③今後の異文化交流に対する興味を喚起する、④学内の留学生の存在を意識化させる、の 4 点が意義として挙げられる<sup>1</sup>。

## 2. 2014 年度の交流会内容

11 月 14 日に、国際交流基金関西国際センターの「日本語教育キャパシティビルディング東南アジア日本語教員養成大学移動講座（インドネシア）」の研修生 32 名（大学生 21 名、教員 11 名）が来学し、本学の日本人学生ボランティアと交流会を行った。

交流会のスケジュールは以下のとおりである。

### 第一部

- 10:40 第一部参加学生集合、交流会内容説明
- 10:45 研修生到着
- 11:00 集合写真撮影、グループ顔合わせ
- 11:15-12:15 ランチ交流会
- 12:15-12:55 キャンパスツアー
- 13:00-13:15 第一部参加学生アンケート実施、解散

### 第二部

- 13:00-13:15 第二部参加学生集合、交流会内容説明、アンケート配布
- 13:00-13:15 インドネシアからの交換学生・大学院生による本学の紹介
- 13:15-13:20 研修生代表挨拶
- 13:20-13:30 インドネシアの文化紹介（バリダンス）
- 13:30-13:40 インタビュー交流会全体説明
- 13:40-14:50 インタビュー交流会（3セッション）
- 14:50-15:00 集合写真撮影、第二部参加学生解散
- 15:15 研修生出発（授業のない学生のみ見送り）

<sup>1</sup> 佐々木良造・亀井元子・嶋ちはる（2014）「国際交流基金関西国際センターとの連携による交流活動」『関西学院大学日本語教育センター紀要』第 3 号

本学は授業期間中であるため、学生が参加しやすいよう、授業時間に合わせて交流会を二部構成とした。第一部には15名、第二部には9名の学生が参加した<sup>2</sup>。

### 3. 交流会の成果と課題

今年度の交流会では、佐々木他（注1）で挙げられたような、英語でやりとりを行う学生や会話のターンを保持しがちな学生等、交流会の目的を理解していない学生は見受けられなかった。

交流会終了後のアンケートでは、参加した学生全員が交流会は「とてもよかった（76%）／よかった（24%）」と回答し、今後同様のイベントがあった場合にも全員が「ぜひ参加したい（71%）／参加したい（29%）」と回答した<sup>3</sup>。交流会がよかったと感じた理由（自由記述）として、「たくさんの留学生と交流できたため」「お互いの文化についていろいろ話すことができて楽しかったから」といったコメントが見られ、研修生との交流や相互の学びを有意義だととらえていたことがわかる。

交流会へのコメント（自由記述）から、改善点として「時間が短かった」ことをあげている学生が複数見られた。特にキャンパスツアーの時間が短かったと感じたようである。また、「事前に交流会の内容や研修生についての詳細を知りたかった」というコメントもあった。来年度以降、スケジュール決定の際の参考としたい。

### 4. 今後に向けて

今後より多くの学生に参加してもらうためには、広報活動にも力を入れる必要がある。今回の交流会をどこで知ったかというアンケートでは、21名中約半数の10名が「CIECメルマガ<sup>4</sup>」と回答した。日本語パートナー募集説明会やコーヒアワー等<sup>5</sup>、多くの日本人学生が集まる機会にCIECメルマガへの登録を促すことで、交流会の情報を多くの学生に発信したい。

学外との交流活動では担当教員間での情報共有、事務職員との連絡が欠かせない。今回の交流会が問題なく終えられたのは、これらがうまく行えたからである。国際交流基金関西国際センターの担当教職員、本学の担当事務職員に感謝するとともに、今後も実施にあたっては、連絡を密にとりながら実施していきたい。

---

<sup>2</sup> 第一部と第二部の両方に参加した学生は3名。全21名が参加した。

<sup>3</sup> アンケートには、交流会に参加した本学の学生21名全員が回答した。交流会は「とてもよかった／よかった／どちらでもない／つまらなかった／とてもつまらなかった」、今後同様のイベントに「ぜひ参加したい／参加したい／どちらでもない／参加したくない／絶対に参加したくない」の5段階評価。

<sup>4</sup> CIEC（国際教育・協力センター）が海外留学や国際交流、留学生との交流に興味ある学生に対して、情報発信のために配信しているメルマガジン。

<sup>5</sup> 日本語パートナーは、交換学生1人につき1～2名の日本人学生を採用し、日本語の会話練習や日本での生活に慣れるためのサポートを行う制度である。コーヒアワーは、春・秋学期に各3回、留学生や海外の協定校からの客員教員と、日本人学生とが交流するためのイベントである。